

2. 自助が基本といわれるが自助とは？ 自分ができることは何か？

自助は、自分でできること、すべきことですが、具体的なことを聞いてみると、防災用品・避難所・自宅避難という言葉が返ってきます。確かに、これらのことは災害発生時を考えると、事前から検討しておくべきことではありますし重要なことです。

しかし、自助で最も大事なことで基本的なことは、暮らしているところの情報をしっかりと理解しておくことで、これがないと、先のことも活かされないこととなります。そして、自助は共助、公助との連携が成り立っていないと弱いものですので、様々な複眼的な目線が求められているというのが自助の大切なこととなります。

自助、共助、公助のそれぞれが機能を発揮するにしても、ワンマンチームでは防災にはなりませんので、それぞれにおけるチームワークこそが重要で繋ぐことを相互に理解して繋ぐための手足を出しておく必要があります。

災害は、起きて初めて分かることが多く、事前に被害の程度を想定することはできませんので、その場での適切な判断に基づく行動とその場に応じた修正が速やかに求められるものです。したがって、これまでの経験に加えて、確かな情報での対応をしないと、思わぬものに遭遇することにもなります。総合的な視点での課題解決能力がリーダーには期待されるし、住民一人一人も情報を共有しながら、その場で適切に理解していかなければならないということになります。

自助は自分自身のためでもあり、共助や公助にも寄与するものであるということになり防災の基本です。理想的なことを言えば、地域自体の防災力を高めて、完全な避難ができれば、公助の負担が減少するばかりでなく復旧や復興も最小限のコストで速やかに実行に移ることができるということにもなります。そう考えていくと、自助は日常的に関心を継続していくことや地域を知ることが必要だということになりますので、機会を逃さず学ぶことが望ましいのです。

例えば、この列島では毎年どこかで不幸にも自然災害が発生していますし、最近は気象のトレンドが変化して様々な被害が報道されます。このような報道を対岸の火事と思わずに、わがこととしてシミュレーションすることも大事なことですし、地域についても災害という視点で見直すとさまざまなものが見えてきます。加えて、よく言われるのはコミュニティです。これもなかなか難しい面もありますが、機会をとらえ勇気を出して様々な機会を活用することが望ましいと思います。また、町内会や自治体の多くで避難訓練が行われていますが、視点というか目的を明確にした、地域に合ったものにするために、住民の意見を聞くことを大事にしなければなりません。参加して得ると感じて、災害への関心を高めていくという意味では、既成のものを繰り返すよりは学校や市民センターとの共同で実施するというのも一案だし、一度に実施するものではなく、様々なグループなどに忍ばせつつ防災への関心を醸成する手もあると思います。いずれにしても、自助は防災の基本的なところですので、モノの備えだけではなく発生時に応用できる基本的なことを身に着けるように心がけておきたいものです。